

新春特集

南極は日本と空でつながっている (上)

地球最南端からの視点

旭川医科大学病院リハビリテーション科助教
医師 及川 欧



昭和基地の近くに到着した砕氷船、しらせ(中央)。その遠くに見える白い起伏は南極大陸。手前のパイプラインは昭和基地の燃料輸送用パイプ(昨年1月14日)

町内在住の医師、及川欧さんが日本の第56次南極地域観測隊の越冬隊医療担当として、2014(平成26)年から1年4カ月間にわたって日本の南極・昭和基地に赴任し、昨年3月に帰国しました。南極とは一体どんな場所なのでしょう。及川さんの見た昭和基地と南極のお話を新春特集(2回連続)でお届けします。

昭和基地は南極大陸にはない(!?)

南極。地球上で最も寒い場所。近年の記録では、一部でセ氏マイナス93度を下回ったこともあります。そんな極寒の地において、1956(昭和31)年に始まった日本の南極地域観測は、国家事業として毎年のように観測隊を送り込み続け、ついに2016年で60

年目を迎えました。

私は第56次南極地域観測隊・越冬隊のただ一人の医療者として、2014年11月に日本を出発し、昨年3月に帰国しました。全国各地で開催している南極観測60周年行事の一環として、国立極地研究所の白石和行所長、北見工業大学の亀田貴雄教授と一緒に、昨年7月に母校の北海道大学で記念講演会を行いました。

2014年は東川町開基120年の年で、その前年には旭川医科大学が開学40周年を迎えました。私は旭川医大を一度退職して南極に向かいました。退路が断たれた途



高所作業車の整備は季節の変わり目に入念に行います。後方に見える四角い建物がR T棟(2015年12月10日)

端に、新天地に向かう開拓者が抱いていたであろう覚悟と似た感覚が芽生えるのを感じました。先人たちのさまざまな恩恵を受けながら得られたこの大変貴重な機会に感謝しています。南極では多くのことを体験してきました。そのすべてをこの誌面で伝えるのは難しいですが、私を温かく送り出してくださった皆さまに少しでも南極のことを知っていただきたいです。

「幽霊が出る」開かずの間がある

日本の観測活動は、今はほぼ昭和基地に集約されて